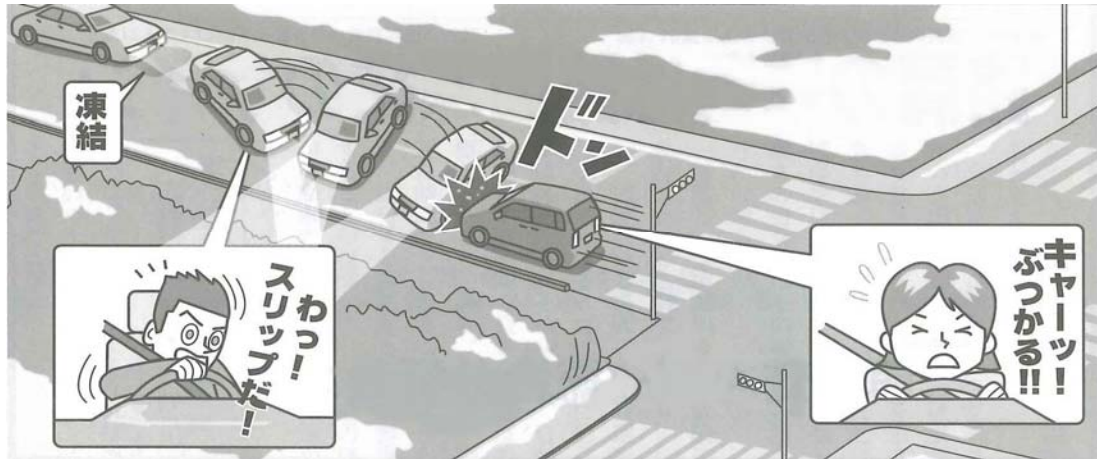


■事故の概況

人と車参照



事故類型：衝突事故

発生日時：1月 夜7時前

当事者A：普通乗用車 10歳代後半 男性

当事者B：普通乗用車 40歳代 女性

■ 事故の概要

Aは前日積もった雪が路肩に残っていたのは知っていましたが、道路上はきれいに消えており約50kmで走行していました。衝突地点の手前10mほどで前方の路面が凍結していることに気がつき、速度を約30kmに減速しましたが、突然スリップをいはじめ、ブレーキもステアリング操作もままならず横滑り状態で対向車線にはみ出してしまいました。

Bは対向側から30～40kmで手前の信号交差点を通過後、スリップしながら斜めに侵入してきたA車を認知しましたが、回避する間もなく自車の右前部へ相手車の側面から衝突されてしまいました。

■ 事故から学ぶ

前日に積雪があっても、翌日晴天になり気温が上がる地域では、車両の通行による融解もあいまって、路上の雪はなくなってしまう。しかし、アスファルトではない地面や路肩の雪はまだ残っていたりします。そこから溶け出した水は、夜間気温が下がるにつれ凍結していきます。路肩に雪が残っている付近で濡れて見える道路は凍結の可能性を考慮に入れたスピードや加速・減速が肝要です。

夜間でなくとも、1日中日の当たらない部分では日中も凍結していることがあります。地域や地形、季節や気温などで状況は異なりますから、一概に言えませんが、冬季は晴れていてもスピードを控え、さまざまな状況に対処できる運転を心掛けたいものです。